



CUDA ConvnetとDeep Learning with MultiGPU

株式会社クロスコンパス

<http://www.xcompass.com>

2014.9.5

ConvNet

- ConvNet
 - 畳み込みニューラルネットワークのC++/CUDAによる実装
 - 任意の非巡回グラフのモデル設計が可能
 - Fermi-generation GPU (GTX 4xx, GTX 5xx, Tesla相当)が必要
 - 自然画像分類ベンチマークCIFAR10
10種類画像の分類を約20分でエラー13%まで減らす
 - <http://code.google.com/p/cuda-convnet/>

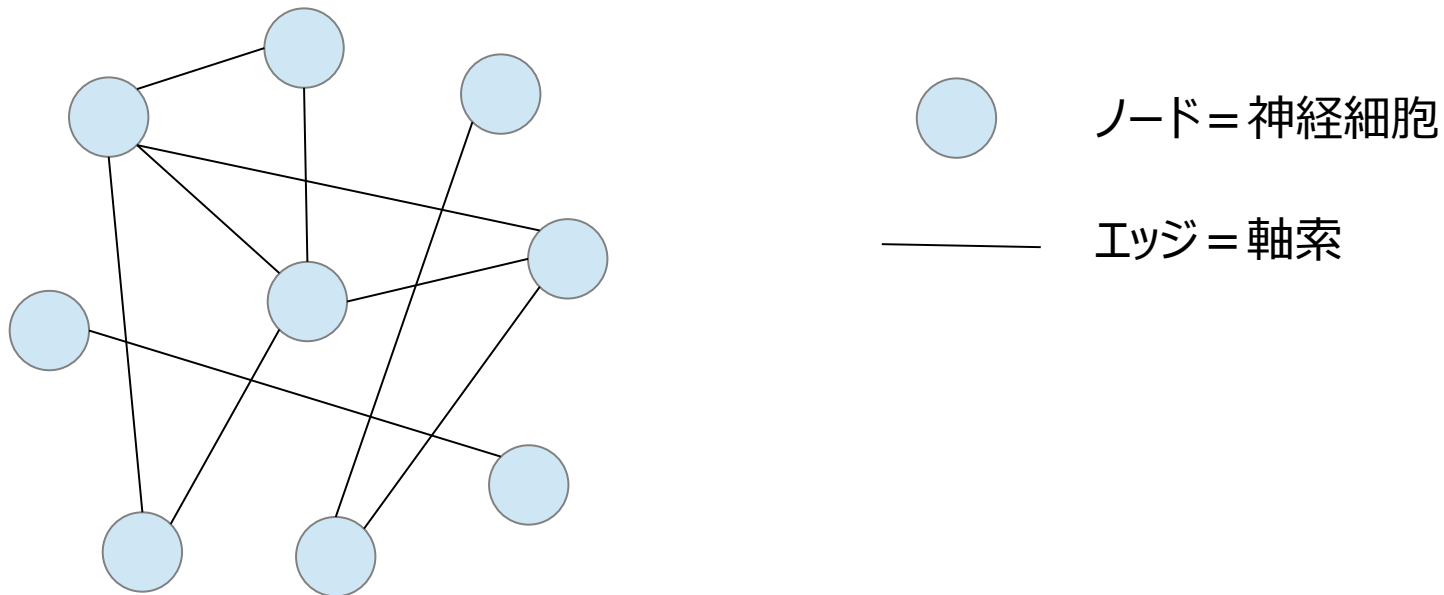
- **ConvNet2 (2014/07/18~)**
 - **Kepler-generation GPUs (Geforce Titan, K20, K40)の学習時間が短く**
 - **マルチGPUの学習が可能**
 - <https://code.google.com/p/cuda-convnet2/>

ConvNetで用いられるニューラルネットワーク

名前	結合	重み共有	出力
data	-		データ、画像サイズなど
logprob, labvec	-		分類ラベル
fc	全	-	ノード活性化関数による
conv	畳み込み	○	ノード活性化関数による
local	畳み込み	×	ノード活性化関数による
rnorm	畳み込み	-	入力の正規化
pool	畳み込み	-	入力の最大値、平均など
dropout	-	-	ドロップアウト
probs	全	-	Softmax
logprob	-	-	Cross Entropy

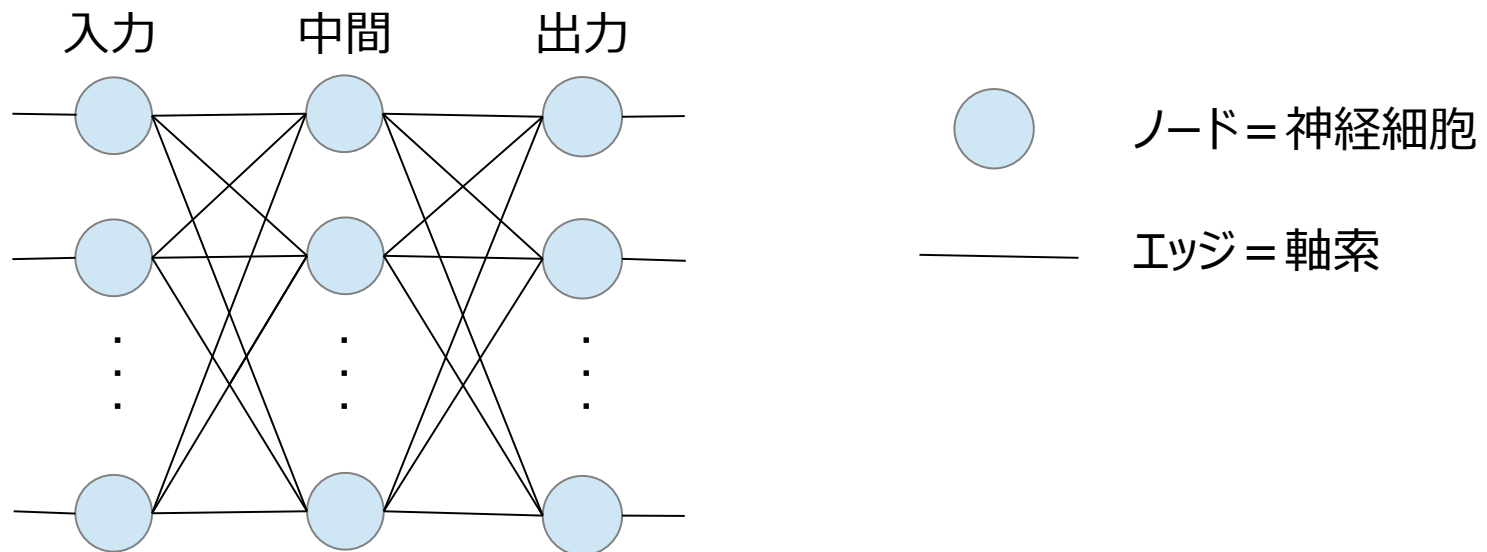
ニューラルネットワーク

- Neural Network (NN)
- 神経回路網を模倣することで脳機能、主に人工知能を実現する努力
- ノードとエッジで構成



フィードフォワード ニューラルネットワーク

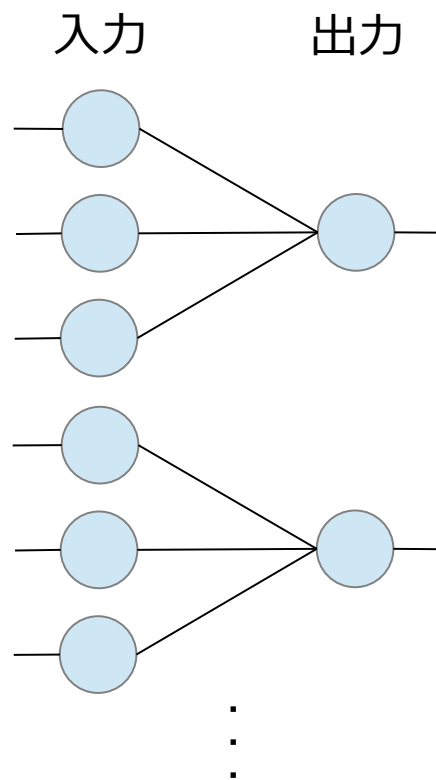
- Feed-forward Neural Network (FNN)
- ループ結合を持たないニューラルネットワーク



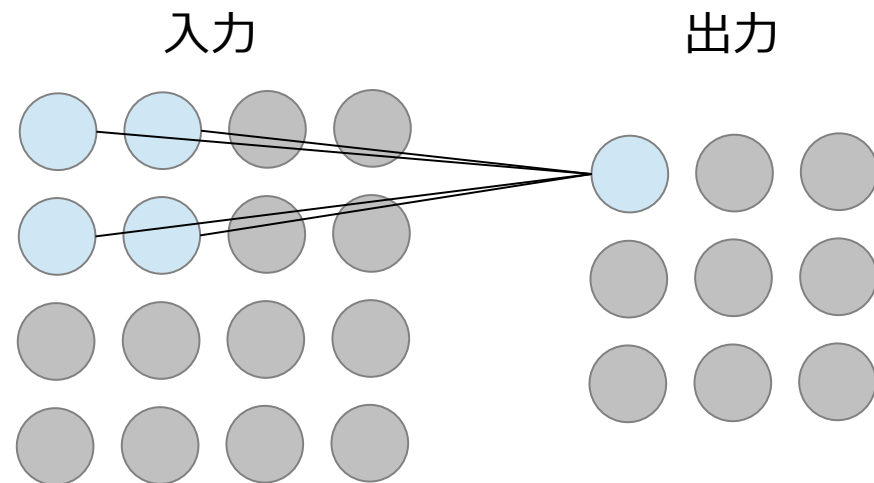
フィードフォワードニューラルネットワーク

局所結合ニューラルネットワーク

- 事前知識を用いたニューラルネットワーク設計の一つ

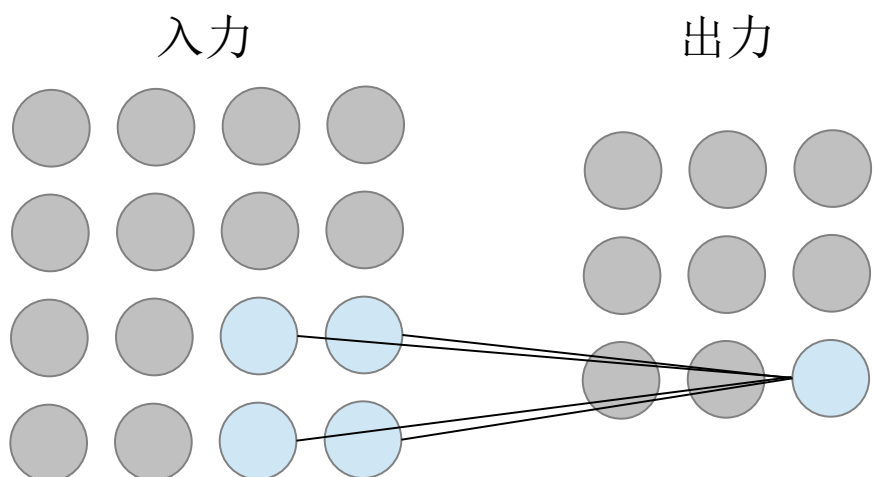
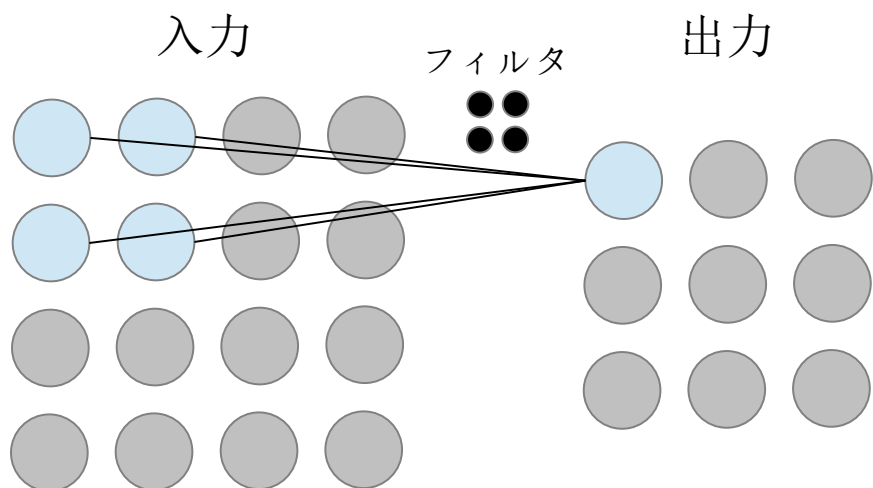


1次元局所結合



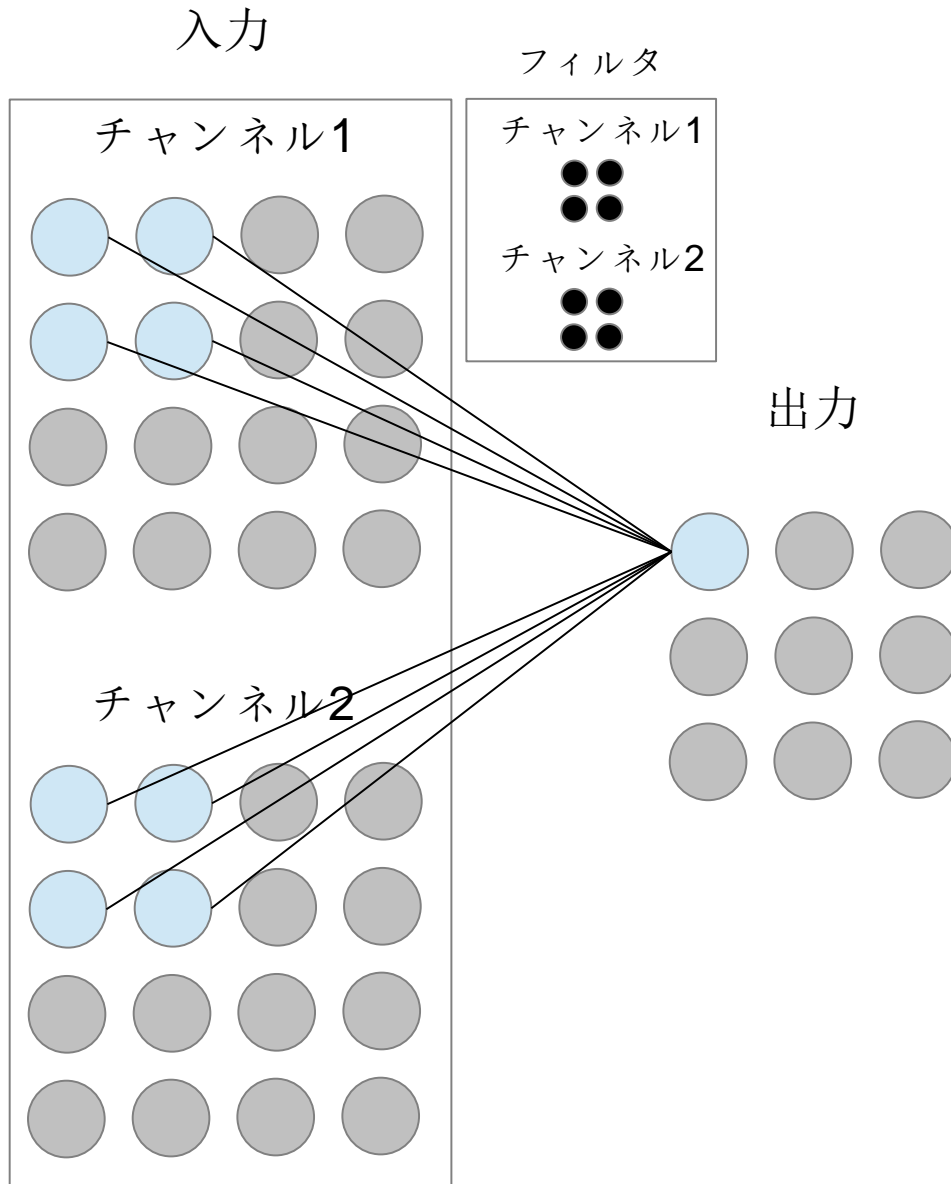
2次元局所結合

畳み込みニューラルネットワーク



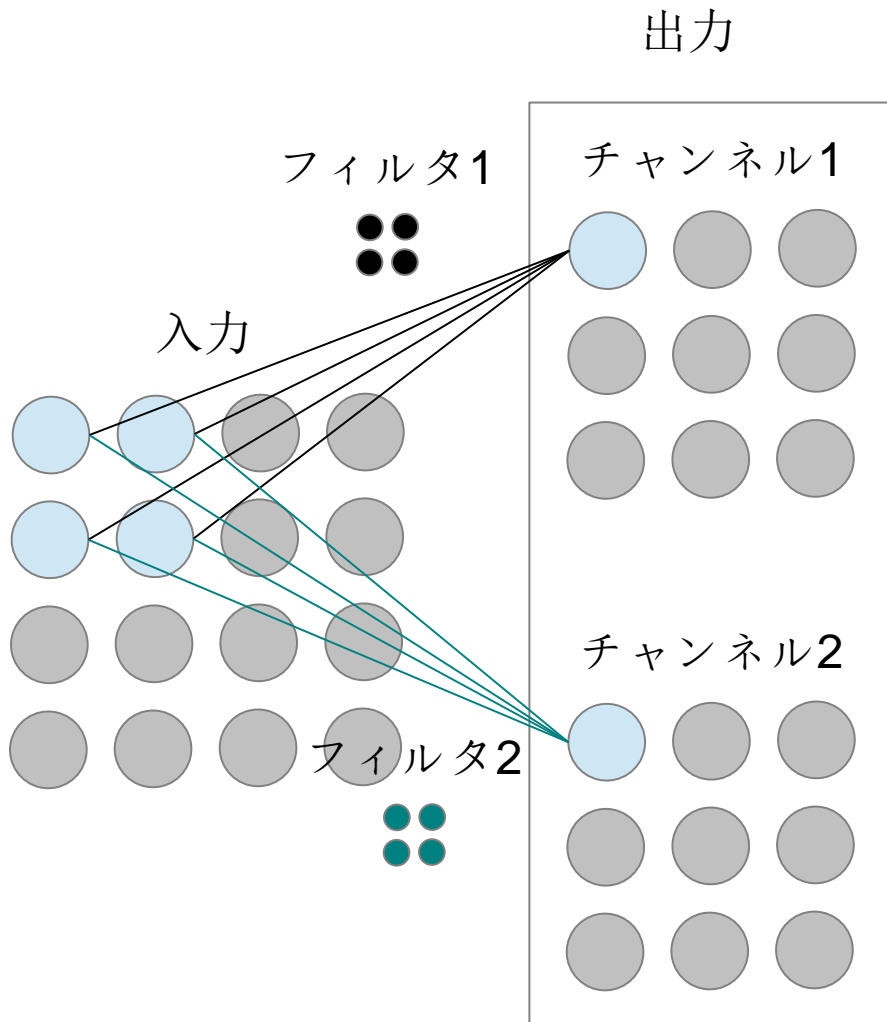
- Convolutional NN (CNN)
- 指定範囲入力ノードをグループ化
- 同グループは同出力ノードに結合
- 結合パラメータのグループを
フィルタと呼ぶ
- 各グループの結合パラメータを共有することでパラメータを削減可能

畳み込みニューラルネットワーク



- デジタル画像を構成するピクセルは3原色で表現されている
- チャンネルとは、その原色の一つだけで構成される動作サイズ画像
- 入りに多数チャンネルで構成された場合、同数チャンネルのフィルタによって出力ノードに結合

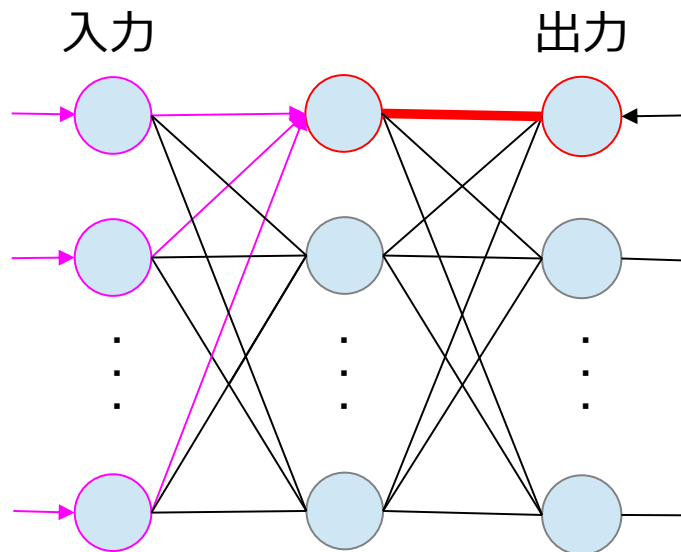
畳み込みニューラルネットワーク



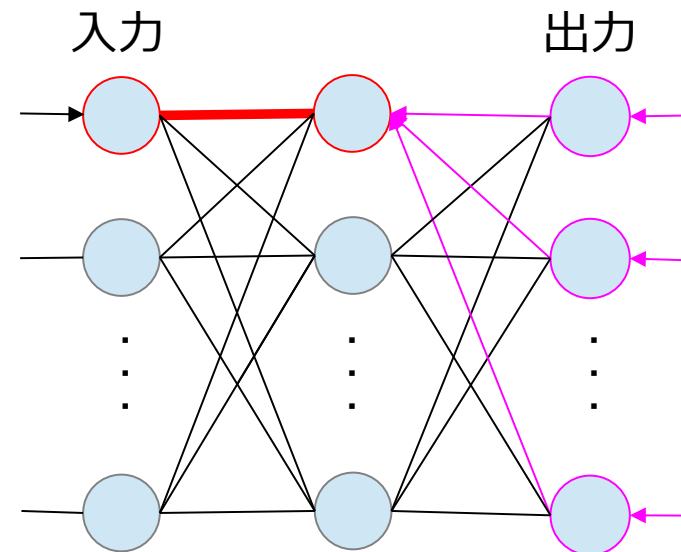
- フィルタが多数ある場合、同数分の出力チャンネルが得られる

誤差逆伝搬(バックプロパゲーション)

- FNNの学習法の一つ
- 出力の誤差を小さくなるように誤差と入力で重みを調整
- 学習対象の重みまで、入力を伝搬、出力誤差を逆伝搬



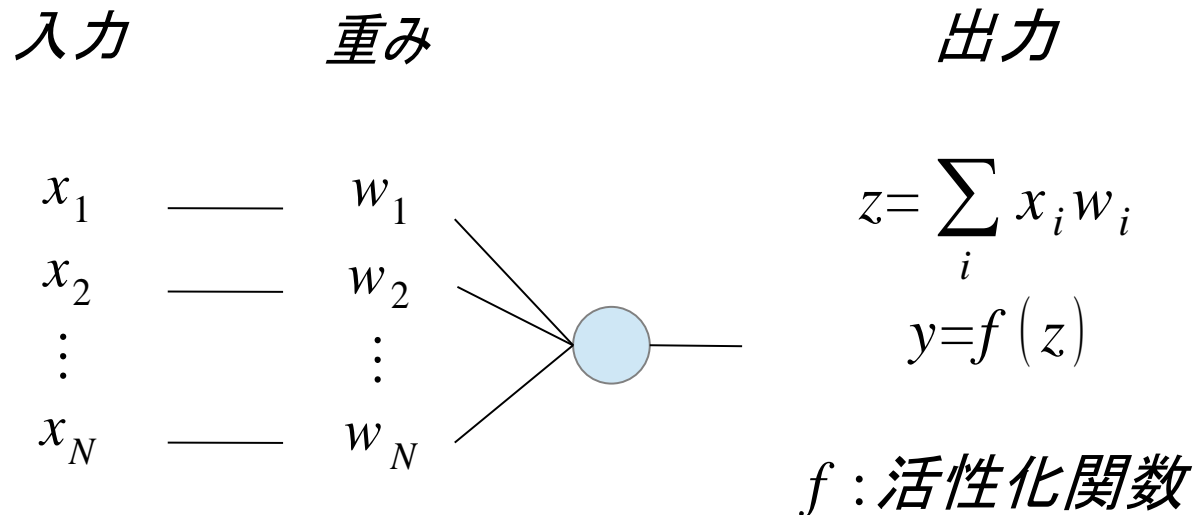
学習対象重み(赤エッジ)まで
入力を伝搬(ピンクエッジ)



学習対象重み(赤エッジ)まで
出力誤差を伝搬(ピンクエッジ)

ノードの出力

- データが入力された際、エッジの持つ重みと掛け算を行い
- その結果を結合先ノードで足し算を行う
- ノードの持つ活性化関数を通して出力する(Sigmoid, tanh, ReLU)

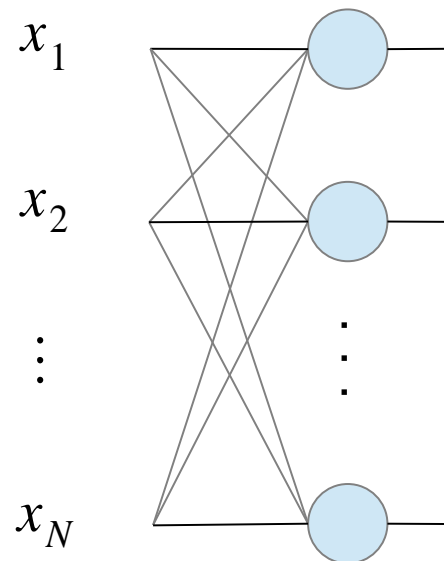


Softmax

- データ分類するニューラルネットワークの出力に用いられる
- 出力の正規化の一つ
- 出力の合計が1.0になり、分類の確からしさとして扱う

入力

出力



$$y_i = \frac{e^{x_i}}{\sum_i e^{x_i}}$$

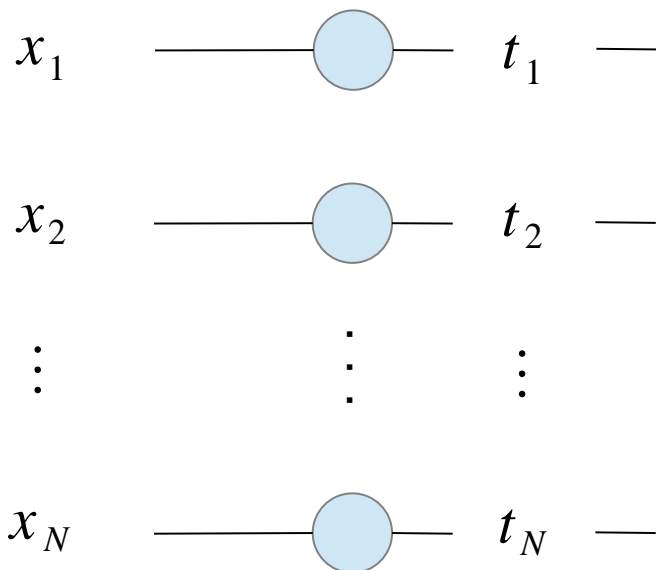
Cross Entropy

- データ分類するニューラルネットワークの目的関数に用いられる
- 出力誤差の一つ
- 入力と教師が一致する場合誤差が0になる

入力

教師

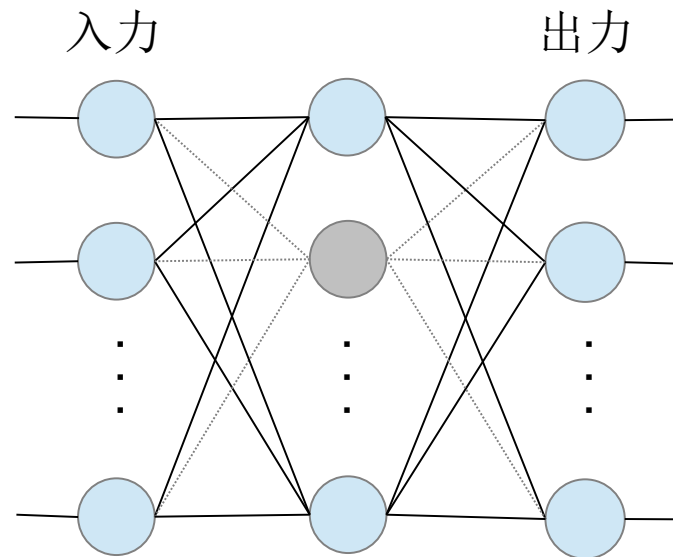
出力



$$y_i = t_i \log x_i + (1 - t_i) \log (1 - x_i)$$
$$= \begin{cases} \log x_i & , t_i = 1 \\ \log (1 - x_i) & , t_i = 0 \end{cases}$$

ドロップアウト

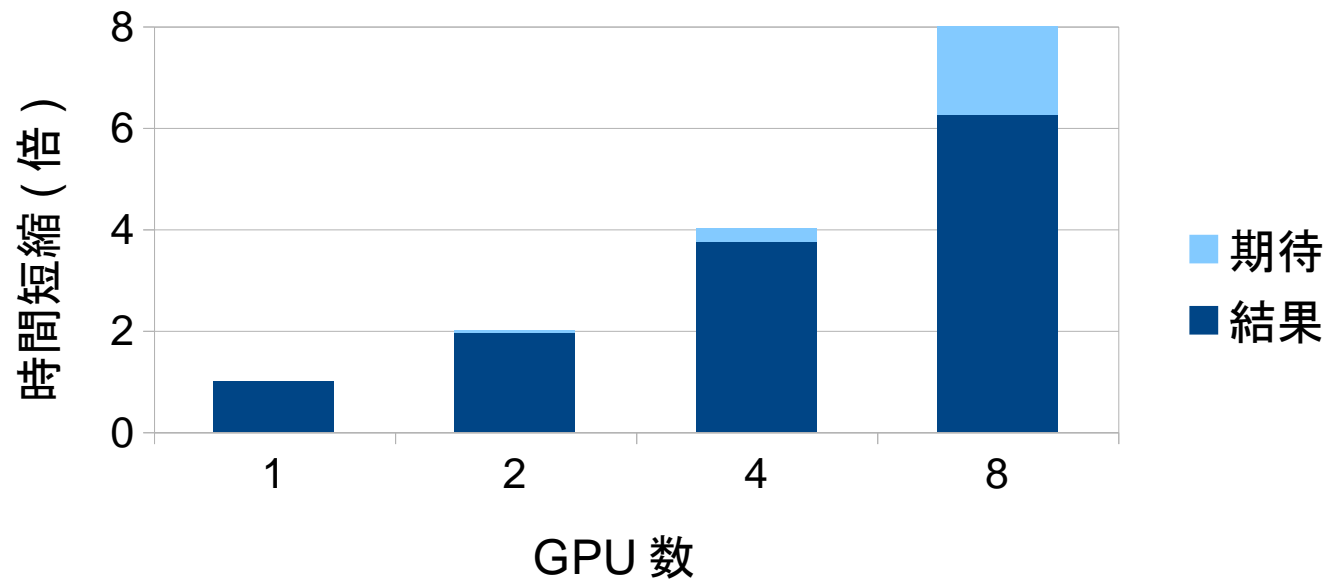
- Improving neural networks by preventing co-adaptation of feature detectors, G. E. Hinton et al., 2012
- 小数データで多層ニューラルネットワークを学習する際に生じる過学習の回避法の一つ
- ランダムにノードを無効化



ドロップアウト (グレー)

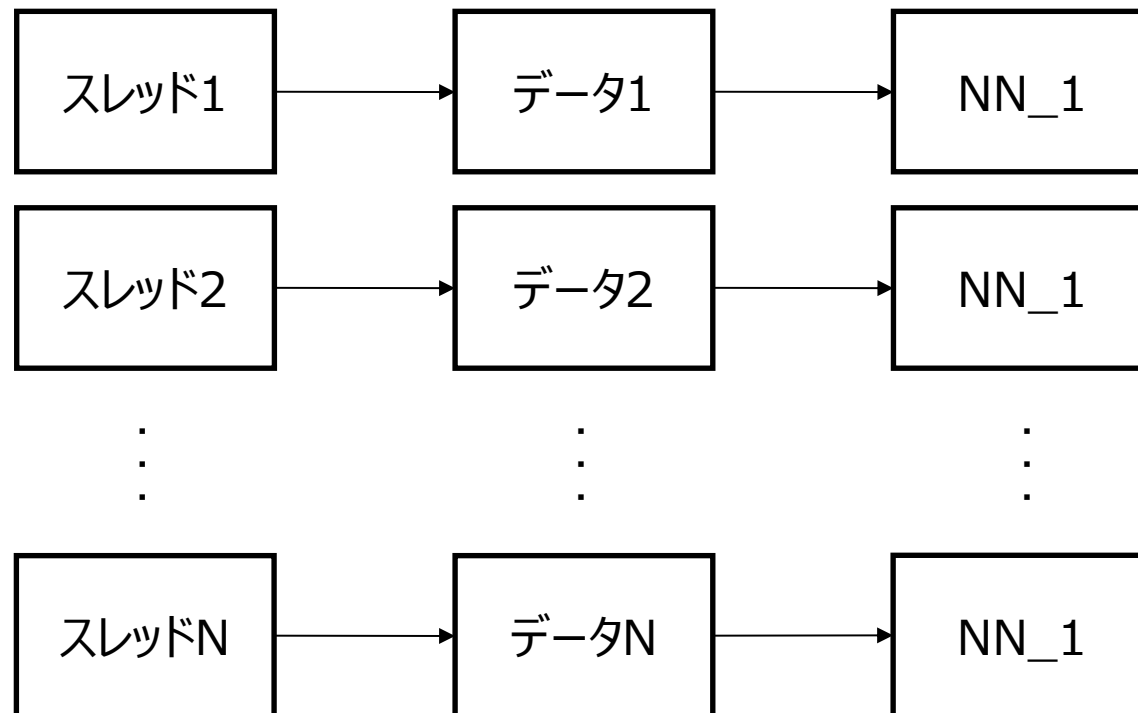
マルチGPUによるCNN学習

- One weird trick for parallelizing convolutional neural networks, A. Krizhevsky, 2014
- 8 NVIDIA K20 GPUs
- 2 Intel 12 core CPUs



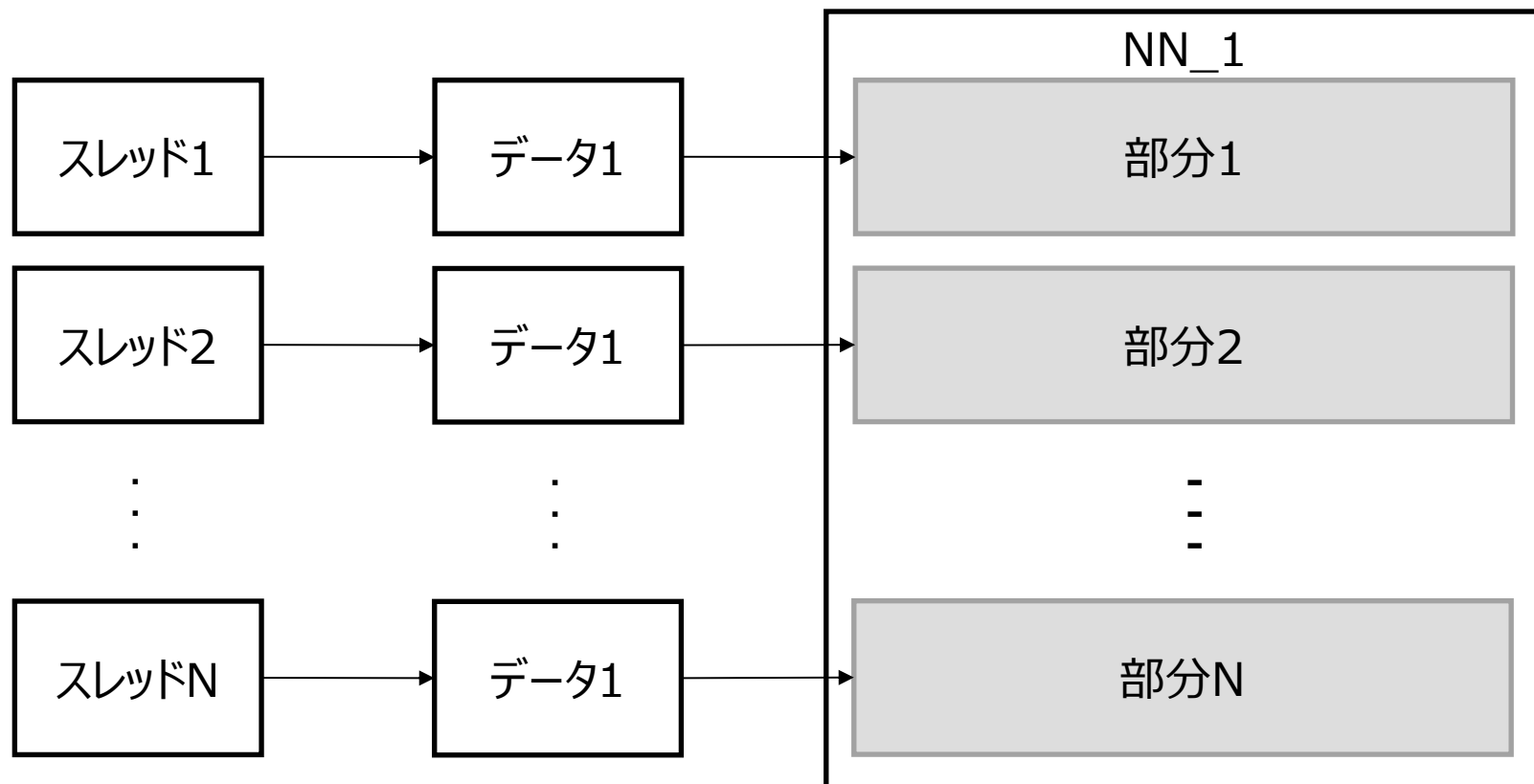
Data Parallelism

- 各スレッドが別データで同ネットワークを学習
- 重みの計算コストが多ければ効果的 (CNN)



Model Parallelism

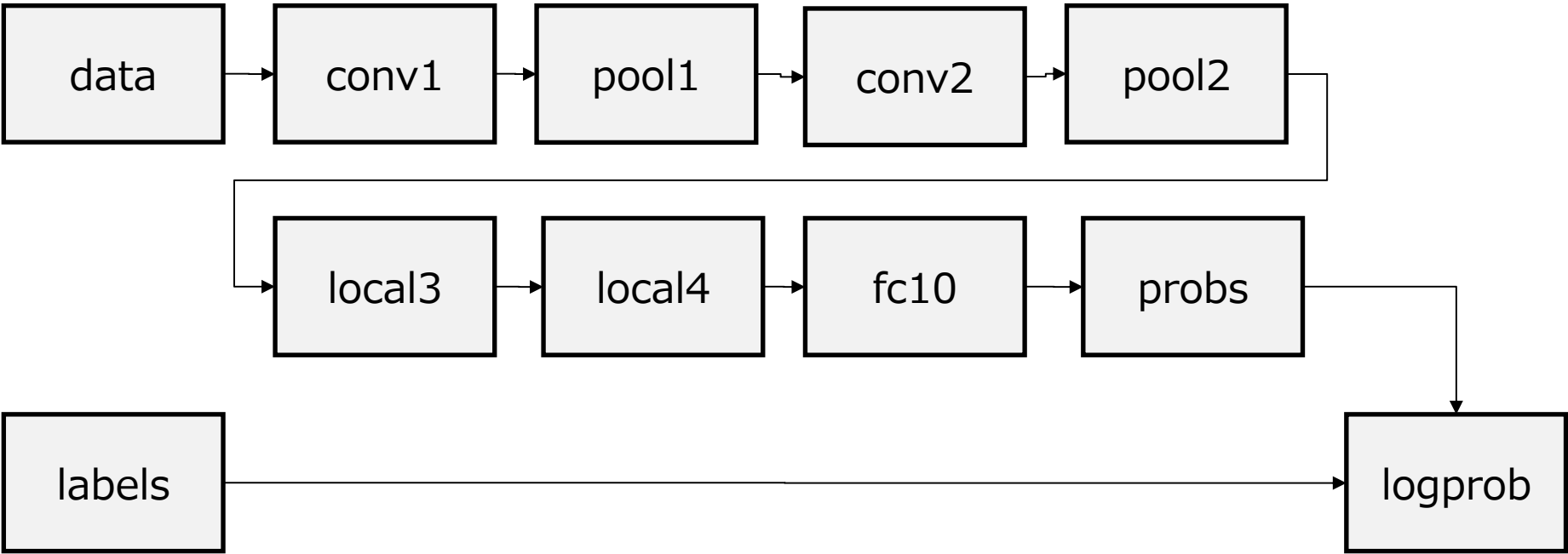
- 各スレッドが同データでネットワークの違う部分を学習
- ネットワークが可能な限り、スレッドが互いにコミュニケーション
- ノード活性化の計算コストが多ければ効果的（全結合FNN）



- ConvNet / ConvNet2
- データ
 - CIFAR10
 - ImageNet
- GPUs
 - GeForce GTX 560 Ti
 - 2 Tesla K20c

ネットワーク構造 (CIFAR10)

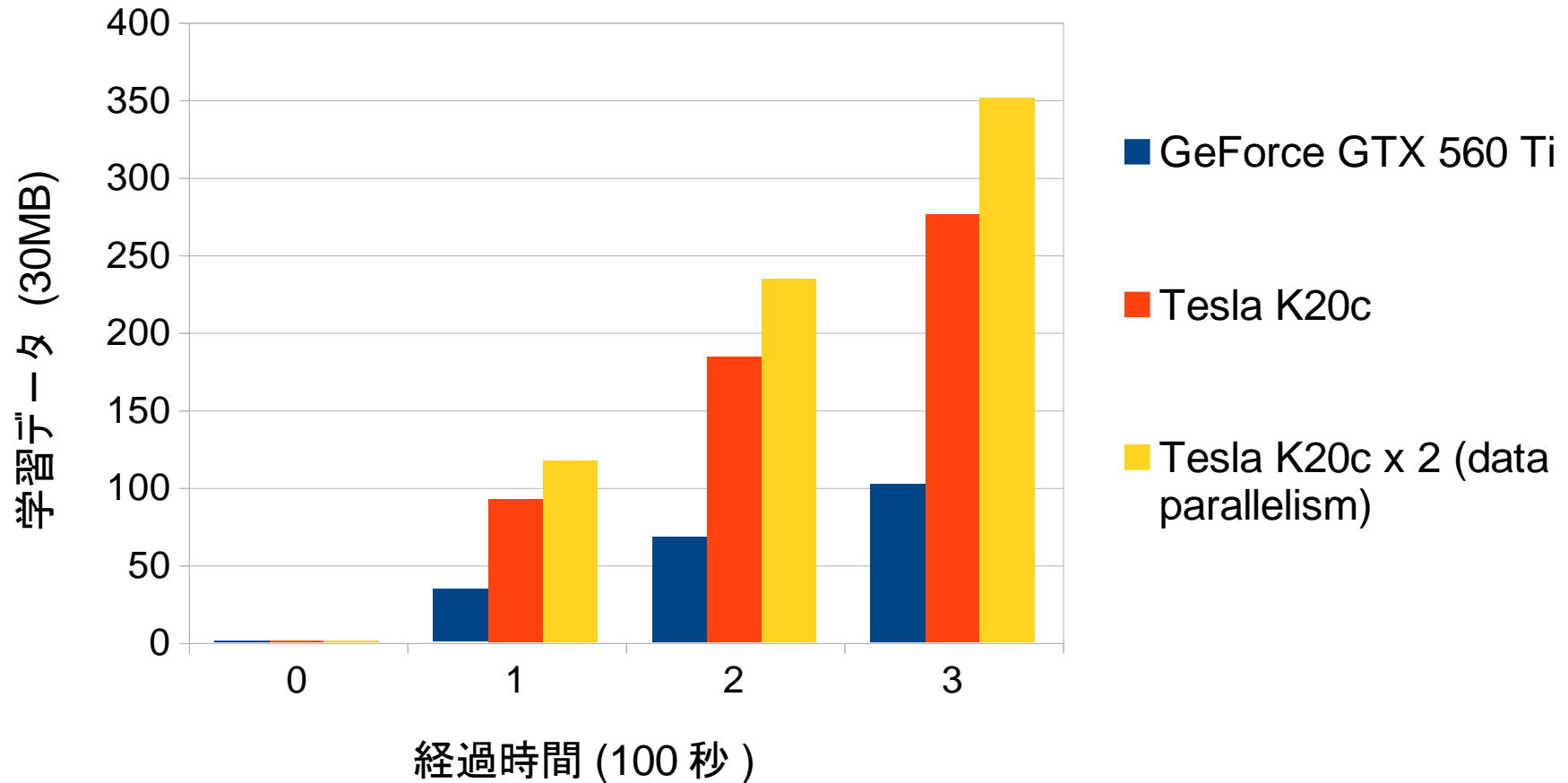
約100万パラメータ



パラメータ数 (CIFAR10)

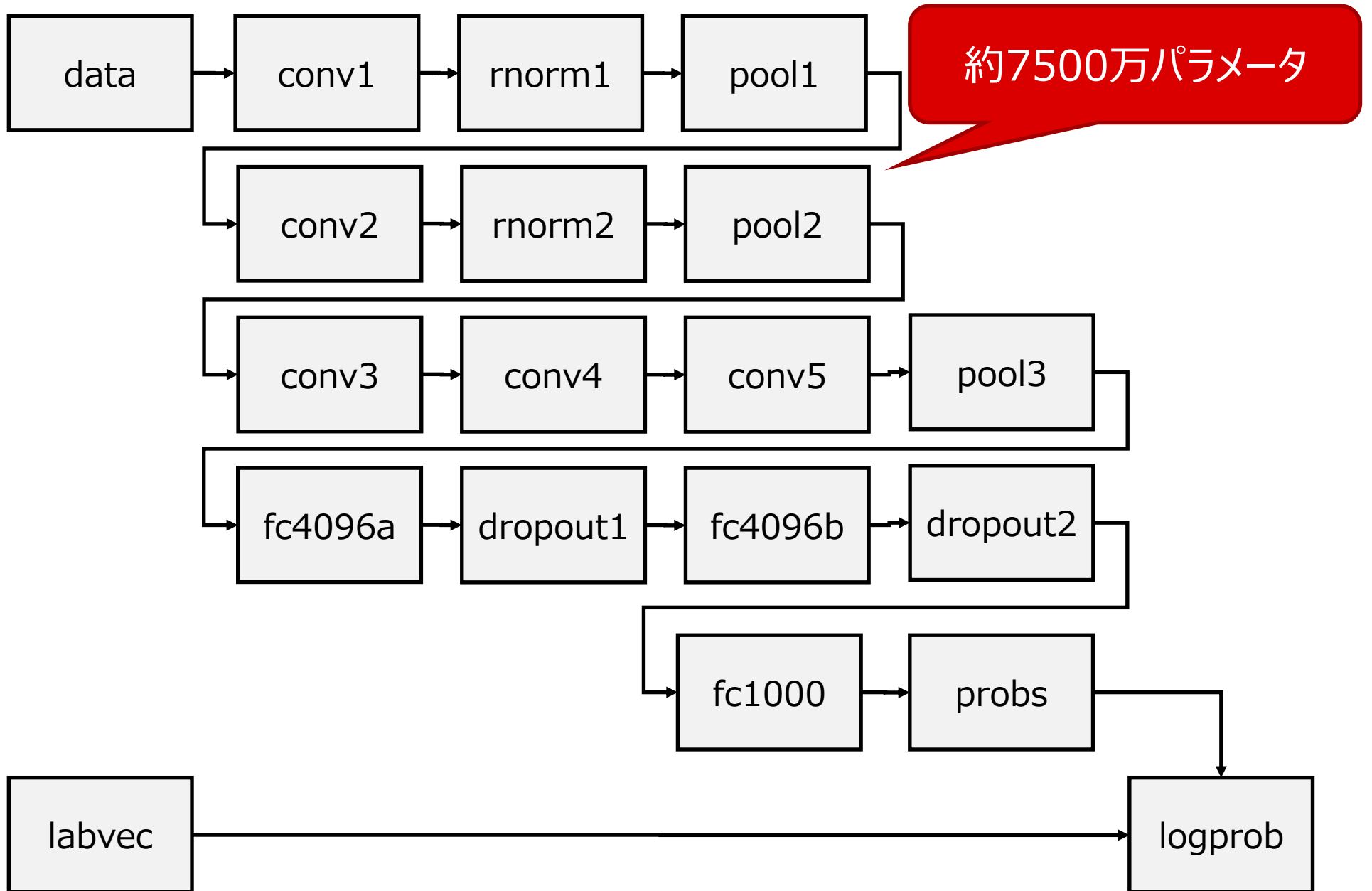
	output	weight	input channel	input width	filter size	filter width	stride
data	1728		3	24(32)			
labels	1						
conv1	36864	4800	3	24	64	5	1
pool1	9216		64	24		3	2
conv2	9216	36864	64	12	64	3	1
pool2	2304		64	12		3	2
local3	1152	663552	64	6	32	3	1
local4	1152	331776	32	6	32	3	1
fc10	10	11520	32	6			
probs	10						
logprob							
sum	61653	1048512					

学習の速さ (CIFAR10)



2GPUの使い方次第で同時に処理できるデータが増加

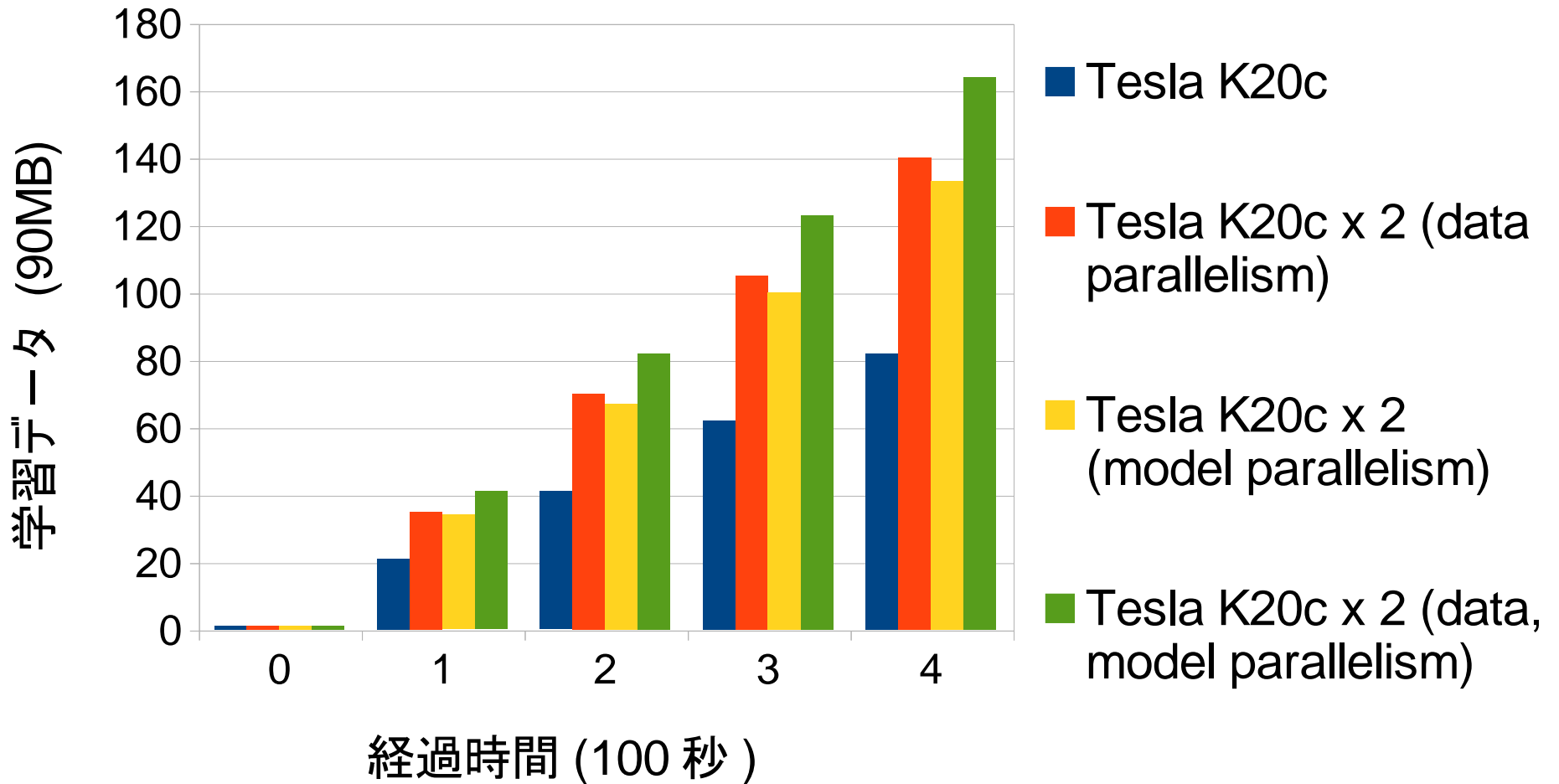
ネットワーク構造 (ImageNet)



パラメータ数 (ImageNet)

	output	weight	input channel	input width	filter size	filter width	stride
data	150528			3224(256)			
labvec	1						
conv1	254016	23232	3	224	64	11	4
rnorm1	254016		64	63		5	
pool1	61504		64	63		3	2
conv2	184512	307200	64	31	192	5	1
rnorm2	184512		192	31		5	
pool2	43200		192	31		3	2
conv3	86400	663552	192	15	384	3	1
conv4	57600	884736	384	15	256	3	1
conv5	57600	589824	256	15	256	3	1
pool3	12544		256	15		3	2
fc4096a	4096	51380224	256	7			
dropout1	4096						
fc4096b	4096	16777216					
dropout2	4096						
fc1000	1000	4096000					
probs	1000						
logprob							
sum	1364817	74721984					

学習の速さ (ImageNet)



2GPUの使い方次第で同時に処理できるデータが増加

Reference

- Improving neural networks by preventing co-adaptation of feature detectors, G. E. Hinton et al., 2012
- One weird trick for parallelizing convolutional neural networks, A. Krizhevsky, 2014